

昔々、その昔、12部族が一緒になったちっぽけな王国があった。
取るに足りないこの小さな点のこの国は、今は大帝国によって支配されていた。

帝国について1～2件、話そう。帝国はいつも正しいと思っている。彼らは正しいので、帝国の権利を行使するために、力や武力を使うことが明らかに容認されている。もしあなたが帝国なら、土地の強奪は正当化される。自分たちの言語や文化の押しつけも正当化される。あなたは方は、より知的で、より強く、誰よりも勝っていると信じる事が正当化される。もし同意しない人がいるなら、その人に暴力を振るい、拷問にかけ、殺すことが正当化される。例を挙げるなら、もし誰かが帝国から盗みを働くなら手を切断される。もしあなたが帝国から失踪するなら、あなたの足が切断される。もし自分自身の権力を帝国に求めるなら、あなたの目がえぐり取られる。

昔々、その昔、何千年にも渡って帝国の権力を行使していた帝国があった。
それはユダと呼ばれる国で行われていた。

12部族の人々は嘆き、怒^{いか}っていた。彼らは大帝国が好きではなかった。
彼らは帝国が持っていた大きな権力を好んでいなかった。人々は帝国の支配から戦い抜け
でる日を待ち望んでいた。すべての権力が12部族の人々に復帰することであった。

昔々、12人の人々はこの小さな地方の埃っぽい道を歩き、大帝国後の世を夢見ていた。
12人は彼らが所有していない権力を切望している。12人は大帝国から取り上げられるか
もしれない支配を夢んでいる。彼らが論じた夢は、先週の日課にあった。彼らは誰が一番
偉くなるかと論じ合う(マルコ9:32)。もし唯一の新しい権力が生まれ、悪の帝国が捨て
去られたなら、誰が最も多くの権力を持つのか？

12人は指導者を得た。教師は異なった世を想像していた。何千年にも渡る帝国の世が
中断される。悪の帝国から他へと移行するのを防いだ世界の世である。
すべての人々に権力を委ねる世界。そこは幼き子供、占領下の子供さえ守られ尊重される。
幼年時代に家族から離なされ、無縁墓で終わることはない。
何千年にも渡る帝国の世が中断される。

これは夢であり、未来図であり、異なる権力への招きであった。
帝国の権力ではない。神の国のようなものを想像してほしい。

“しかし” 12人は指導者に従って歩んだ。彼らは尋ねた『誰が一番偉いのでしょうか』。教師は手の平を額に当て、「いいえ」と言った。いいえ、帝国体制下の権力を想像をすることを止めなさい。私たちは新たなる帝国を作っているのではない。かつては人々のものであったのを盗み戻したために、帝国は人々の手を切断した。そこは私たちの場所ではない。

教師は社会に、最も小さく永遠の力を想像するようにと誘った。

ほこりまみれの足と心で従う12人は、想像することができなかった。

12人は再び尋ねた『先生、私たちの力を使って悪霊を追い出している人がいました。止めるように言いました。見て下さい、どのように私たちは力を取り戻したか見て下さい。私たちは彼らを止めさせたのです』。教師は手の平を額に当て、いいえと言った。規則や制約に躓いたために、足を切断するような新しい国を造るのではないのです。

教師は12人を見つめた。その12人は帝国体制下の権力を知っているだけだった。教師は12人を見つめた。教師は12人がまた違った権力を求めているのを知っていた。かつての帝国は、帝国の国境を外れる未来図（帝国の否定）を求める人の目をえぐり出すことができた。これは恐ろしい招きであった、そして今もお…

教師は愛している12人を見つめた。教師は逆さまにした権力を想像するように求めた。地方の部族の最も幼い子供を躓かせたことを想像しよう。そして十分に罪を悔いるなら、自分の手、足、目を切り取り、捨てる去るのだ。把握する権力、動かす権力、見る権力、知る権力を取り、捨てる去るのだ。なぜなら無力な人を躓かせたからだ。

これは真っ逆さまであり、不確かな招きであった。そして今もお…
永遠の命は危うくなっている。あなたより力がない人に対する権力の悪用は、帝国の作り変えであり、悪のサイクルの新しいサイクルである。地獄の火は権力の悪用で燃え盛る。

昔々、荒野の道を歩いていた一人の男が、聞く耳を持った12人に告げた。
12人の男は物事を見た。物事を成し遂げた。そして12人の各々は、帝国の手によって葬られた。12人の各々は、彼らの人生が帝国の法律に躓いた時、その地の権力者たちによって取り去られた。

昔々、一人の男が小さな地方の荒野の道を歩いていた。
昔々、彼の道を歩む人々は、異なる権力を想像するように促された。

昔々。今の時代はどうだろう。

疑問の余地はない。権力と支配の悪用が根源となる帝国のサイクルは継続している。

この物語は昔々に占領下のイスラエルで起きた。

この物語は開拓者がこの土地を占領したカナダで起きた。

この物語は私たちが被造物を占有する地球で起きている。

この物語は現在である。

イエスがちょうど手の平を額に当てるを見るだろう、そして言う、

『人々よ、あなたがたは私の道を歩むことを選び、荒野のわたしを見る。

わたしは言わなければならない。ある者が躓いているのが見える。』

そのことがここにある。権力は誘惑する。支配を求めることは、

神の国を見るための道に侵入し、永遠の命から離れさせる。

私たちが把握し、つかみ取り、手にもつことができると思うこれらの場所。

その権力（奢り）をわきに投げ捨てよう。

私たちが行動し、進んでゆく権利があると信じるこれらの場所。

その権力（奢り）をわきに投げ捨てよう。

私たちが一番よく知っていると思うこれらの場所。私たちは真実を知っている。

その権力（奢り）をわきに投げ捨てよう。

悔い改める。帝国が私たちに唯一の道であると告げている権力像から目を逸らそう。

悔い改める。権力と支配から手を離そう、離すのだ。そうすれば、この時代、この場所で、

他の悪のサイクルをあおりたてるもう一つの帝国に躓くことはない。

最後に、この物語では、イエスは帝国に語りかけておられなかったことに気付く。

イエスは宮殿の戸を礼儀正しくノックされていない。

それは権力を悪用した悪魔に、王が躓いていたのを知らせるためである。

そうではない。イエスは弟子たちに語りかけておられた。

イエスは私たちのような人々に、多くを語りかけておられた。

イエスは、権力と支配を手にしたこれらの場所を払いのけ、

そして神の国を探すようにと私たちに招かれている。

(文責長澤猛)